

「歯周治療の基本技術」プログラム

1単位:60分 (eラーニングを除く)

研 修 項 目	内 容	単位	演習
Ⅰ 歯周治療の基礎	A 歯周病とは(原因、病態、分類等)	3	
	B 歯周組織のしくみと役割(組織学、解剖学、細菌学等)		
	C 歯周治療の基本的な流れと進め方		
	D 医療面接と主観的情報の把握(主訴、現病歴、既往歴等)		
	E 全身疾患、生活習慣病に関する知識		
	F 歯周医学(ペリオドンタルメディシン)		
	G eラーニング 項目Ⅰ受講:3単位		
Ⅱ 検査と評価	A 歯周組織検査(視診、プロービング等)	5	○
	B 細菌検査		
	C 口腔内写真の撮影と活用法		○
	D エックス線写真の読影・CTの知識		○
	E eラーニング 項目Ⅱ受講:3単位		
Ⅲ 口腔衛生指導と生活習慣指導	A セルフケアについて	4	
	B 行動変容に必要な知識と技術(カウンセリング等)		○
	C 禁煙支援		○
	D 食生活の改善指導		○
	E 咬合や力に関する知識とアプローチ(悪習癖の改善等)		
	F eラーニング 項目Ⅲ受講:3単位		
Ⅳ スケーリング・ルートプレーニング(SRP)	A 手用スケーラーのインスツルメンテーション	8	○
	B 超音波スケーラー(エアースケーラーを含む)のインスツルメンテーション		○
	C シャープニング		○
	D プロフェッショナルケア(歯肉縁上・縁下のプラークコントロール、PTC・PMTTC)		○
	E eラーニング 項目Ⅳ受講:2単位		
Ⅴ 歯周治療の補助に必要な知識と技術	A 歯周基本治療について ・目的、治療の実際、咬合治療、抗菌療法等	5	
	B 歯周外科治療について ・目的、治療の実際、根分岐部病変への対応、 歯周組織再生療法等		
	C 口腔機能回復治療について ・咬合治療、歯周補綴、歯周一矯正治療等 ・インプラント治療		
	D 高齢者、有病者、在宅者への対応		
	E eラーニング 項目Ⅴ受講:2単位		
	F eラーニング 項目Ⅶ受講:1単位		
Ⅵ SPT・メインテナンスに必要な知識と技術	A SPT・メインテナンスへの移行について	3	
	B SPT・メインテナンスの実際		
	C 知覚過敏・根面カリエスの予防		
	D 症例検討・報告		○
	E eラーニング 項目Ⅵ受講:1単位		

※ eラーニングの内容(コンテンツ)は、別紙「eラーニング研修の実施要領」を参照のこと

「摂食嚥下機能療法の基本技術」プログラム

1単位:60分

研 修 項 目	内 容	単 位	演 習
Ⅰ リハビリテーション総論	A リハビリテーション医学・医療とは	3	
	B リハビリテーションにおける介入方法(治療的、代償的、生活改善的、心理的)		
	C 摂食嚥下リハビリテーションに関連した社会資源		
	D 摂食嚥下リハビリテーションにおけるチームアプローチと関連医療法規		
	E 摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士の役割		
Ⅱ 摂食嚥下のメカニズム	A 摂食嚥下関連器官の解剖 (1) 嚥下の中核機構 (2) 口腔、鼻腔、咽頭、喉頭、食道の構造 (3) 摂食嚥下に関与する筋と支配神経	2	
	B 摂食嚥下関連器官の生理 (1) 摂食嚥下のプロセス (2) 咬合支持と咀嚼		
Ⅲ 摂食嚥下障害の病態論	A 小児 (1) 摂食嚥下機能の発達とその障害	1	
	B 摂食嚥下障害 (1) 加齢(フレイル、サルコペニアを含む)、認知症と摂食嚥下機能 (2) 脳血管障害、高次脳機能障害、神経・筋疾患等 (3) 頭頸部がん等治療過程 (4) 摂食嚥下障害を引き起こす薬剤	3	
Ⅳ 摂食嚥下機能の評価と検査	A 検査法 (1) 嚥下造影(VF)と評価 (2) 嚥下内視鏡検査(VE)と評価	7	
	B フィジカルアセスメント (1) 主訴・病歴・問診・全身症状(認知、発語含む)		
	C 摂食時の外部観察評価		○
	D 摂食嚥下機能スクリーニング法 (1) 反復唾液嚥下テスト(RSST)、改訂水飲みテスト(MWT)、フードテスト(FT)、頸部聴診法、ほか		○
	E 嚥下器官運動検査 (1) 呼吸機能、頸部可動域、顎運動、舌運動、口唇・頬運動 (2) 発声持続、構音、軟口蓋 (3) 咽頭反射、咳反射		○
	F 摂食嚥下障害の重症度分類		○
	G 摂食嚥下レベルの評価 (1) 摂食嚥下能力のグレード、摂食状況のレベル		
	H 問題解決過程		○

別表1-2

研 修 項 目	内 容	単位	演習
V 摂食嚥下障害に対する訓練法	A 基礎訓練(間接訓練) (1) 間接訓練の概念 (2) 開始の前提条件と進め方 および留意点 (3) 間接訓練技法と効果 ①呼吸訓練 ②口腔器官訓練(頬、口唇、舌、唾液腺刺激、バンゲード等) ③鼻咽腔閉鎖、咽頭収縮、喉頭閉鎖訓練 ④発声、構音訓練 ⑤準備期・口腔期に対する間接訓練 ⑥咽頭期に対する間接訓練	3	
			○
			○
			○
			○
			○
			○
	B 摂食訓練(直接訓練) (1) 直接訓練の概念・開始基準・中止基準 (2) 段階的摂食訓練の考え方 (3) 直接訓練時の環境設定 (4) 体位・姿勢の調整 (5) 嚥下方法の選択(一口量、ペーシング、うなずき嚥下、空嚥下等) (6) 食物形態の選定と調整 (7) 食事介助方法 (8) 訓練中のフィジカル・イグザミネーションとリスク管理	3	
			○
			○
			○
			○
VI 摂食嚥下障害とリスク管理	A リスクマネジメントとは (1) 嚥下障害におけるリスク (2) 低栄養と脱水 (3) 誤嚥・窒息等の対応(ハイムリック法、背部叩打法等)	3	
			○
	B 呼吸アセスメントと呼吸管理 (1) 呼吸アセスメントの方法(呼吸音、SpO2など) (2) 呼吸理学療法 (3) 喀痰吸引の理解と実際 (4) 気管切開(カニューレを含む)の理解と装着患者のリスク管理 (5) 人工呼吸器の理解と装着患者のリスク管理		○
			○
			○
			○
	C 非経口摂取の理解とリスク管理(経静脈栄養、経鼻経管栄養、PEG)		
	D 場面別リスクマネジメント (1) 口腔清掃時 (2) 直接訓練時および食事場面		

別表1-2

研 修 項 目	内 容	単位	演習
Ⅶ 摂食嚥下障害と栄養	A 栄養管理の重要性	2	
	B 栄養アセスメントの方法(観察、身体計測、検査など)		
	C リハビリテーション栄養		
	D 経管栄養法 (1) 適応、種類と特徴、合併症		
	E 嚥下調整食分類の種類と調理方法		○
	F 各種嚥下調整食の試食		○
	G 栄養サポートチーム(NST)の概念		
Ⅷ 摂食嚥下障害者の口腔機能管理	A 口腔機能管理の基本技術	3	○
	B 口腔機能管理の実践		
	(1) 居宅における口腔機能管理		○
	(2) 施設における口腔機能管理		○
	(3) 病院における口腔機能管理		○
	(4) 多職種連携によるチームアプローチ		

「歯科診療所等における医療安全管理対策」プログラム

1単位:60分(eラーニングを除く)

研修項目	研修内容	単位
I 医療事故とは	A 医療事故の考え方	2
	B 用語の定義 (インシデント、アクシデント、ヒヤリ・ハット、医療過誤、医療事故、ニアミス)	
	C 医療事故の原因と現状	
	D 医療事故処理	
II 医療安全対策とは	A 医療安全管理に対する法律制度について	4
	B システムアプローチ (医療安全管理システム・医療安全の監視体制)	
	C 医療事故防止マニュアルおよび指針	
	D 事故発生時の対応と回避	
	E インシデントの報告制度(院内・院外報告ルート)	
	F 事例と対策	
	G 歯科診療所(小規模)の特徴	
	H 歯科診療におけるリスクマネジメント	
	I 救急処置、蘇生	
III 歯科衛生士業務における医療事故防止	A チェアアサイド業務	4
	B 歯科診療の補助	
	C 歯科予防処置	
	D 保健指導	
	E 診療室の業務管理 (事務業務・機器・機材の管理・薬剤管理・材料等の管理・伝達の誤認・環境整備等)	
	F 歯科訪問診療における留意点 ・呼吸管理の考え方 ・喀痰吸引の考え方	
	G 災害時(火災・地震)の対応	
IV インフォームドコンセント・接遇	A インフォームドコンセントとは	2
	B 個人情報保護と情報の漏洩防止及び情報の開示	
	C 医療面接・接遇の基本	
V 院内感染対策(感染予防対策)	A 歯科診療所における院内感染とは	4
	B 標準予防策(スタンダードプリコーション)	
	C 滅菌・消毒・洗浄の適切な選択	
	D 院内感染予防の実際 (手洗い・グローブ・マスク・ゴーグルの使用等)	
	E 歯科医療従事者の曝露事故、感染事故(針刺し事故、肝炎ウイルス感染等)管理	
	F 感染経路別予防策とゾーニングの概念	
	G 感染性廃棄物の処理	
VI 感染症予防歯科衛生士講習会	A 集合型研修 240分以上:4単位	4
	B web研修(webを活用した集合型研修を含む) 180分:3単位	
VII eラーニング	A 項目 I 受講:1単位	2
	B 項目 I + 項目 II 受講:2単位	

※ eラーニングの内容(コンテンツ)は、別紙「eラーニング研修の実施要領」を参照のこと

「周術期等の口腔機能管理」プログラム

1単位:60分 (eラーニングを除く)

研修項目	研修内容	単位数
Ⅰ がん治療とは	A がん治療とそれによる全身的变化	3
	B がん集学的治療とは	
	C がんの診断と評価	
	D がんの病期診断	
	E 患者の病態評価	
	F がん対策基本法とがん対策推進基本計画について	
	G がん患者の歯科支持療法の考え方	
Ⅱ 周術期の患者の歯科治療・口腔機能管理	A 周術期における歯科介入の意義 ・周術期における口腔機能管理の必要性 ・呼吸器合併症(誤嚥性肺炎)のリスク ・挿管時のトラブル	3
	B 周術期におけるコミュニケーション技術	
	C 術前の口腔機能管理の実際と留意点	
	D 術後患者の歯科治療と口腔機能管理	
Ⅲ 薬物療法(化学療法)患者の歯科治療・口腔機能管理	A 薬物療法を受ける患者の特徴 ・口腔粘膜炎のメカニズム ・口腔粘膜炎のリスク ・口腔粘膜炎の病態と対処 ・口腔粘膜炎以外の病態と対処 (味覚異常、菌性感染症、カンジダ口内炎、ヘルペス口内炎、口腔乾燥、口腔内出血等) ・抗がん剤治療による白血球の変化	3
	B 歯科治療と口腔機能管理	
	C 造血幹細胞移植患者の口腔合併症と口腔機能管理	
Ⅳ 放射線療法患者の歯科治療・口腔機能管理	A 頭頸部の放射線・化学放射線療法の特徴 ・頭頸部がん放射線療法による口腔への影響 ・放射線治療による口腔合併症と対処	2
	B 歯科治療と口腔機能管理	
Ⅴ 緩和ケア・終末期患者の歯科治療・口腔機能管理	A 緩和ケアとは	3
	B 終末期患者の特徴	
	C 口腔内の特徴	
	D 歯科治療と口腔機能管理	

別表1-4

研修項目	研修内容	単位数
VI BMA(Bone Modifying Agents) 使用に関連する顎骨壊死と 歯科治療・口腔機能管理	A がん骨転移のメカニズムとBMAの薬理作用	2
	B BMAによる顎骨壊死の臨床病態と症例	
	C 顎骨壊死のリスクファクター	
	D 歯科治療と口腔機能管理	
VII 小児がん治療患者の 歯科治療・口腔機能管理	A 小児がん治療に伴う歯科的問題	1
	B 歯科治療と口腔機能管理	
VIII チーム医療 連携	A 医科歯科連携の概要と連携の流れ ・周術期等の患者に対する医療チームについて ・周術期等の治療に携わる医療専門職の役割	3
	B 連携歯科医院で行う口腔機能管理の実際	
	C 病院内の歯科で行う口腔機能管理の実際	
	D 高額医療助成制度について	
	E 地域包括ケアシステムへの対応	
IX eラーニング	A 項目 I 受講:1単位	1

※ eラーニングの内容(コンテンツ)は、別紙「eラーニング研修の実施要領」を参照のこと

「在宅歯科医療の基礎」プログラム

1単位:60分(eラーニングを除く)

研 修 項 目	内 容	単位	演習
Ⅰ 在宅歯科医療概論	A 地域包括ケアシステムについて	2	
	B 在宅歯科医療の現状と課題		
	C 在宅療養者の医療・介護に関する制度		
Ⅱ 在宅における医療と介護の連携	A 情報収集の注意点	2	
	B 急性期病院から在宅まで		
	C 在宅療養者の支援の流れ		
	D 在宅療養者への医療提供方法		
	E 在宅療養における医療およびケアの提供		
Ⅲ 在宅療養者の病態把握	A 全身状態の把握(薬剤、検査値の基礎知識)	4	
	B 身体機能および精神状態の変化の把握		
	C 高齢在宅療養者に多く見られる全身疾患 〔悪性新生物、認知症、脳血管障害、神経筋疾患、難病(神経難病)、循環・消化器疾患、呼吸器疾患、内分泌代謝系疾患(糖尿病)〕		
	D 在宅療養者にみられる口腔領域の疾患・症状 (口腔粘膜疾患、口腔乾燥など)		
	E 歯科診療上の問題点と対応		
Ⅳ 口腔機能の評価と管理	A 咬合と咀嚼運動	3	
	B 咀嚼障害と全身への影響		
	C 嚥下障害		
	D 口腔機能低下症の概念		
	E 口腔機能低下症の予防と対応		
Ⅴ 栄養管理	A 食生活アセスメント	3	
	B 摂食嚥下障害と栄養管理		
	C 低栄養とその対応(栄養食品等)		
	D 栄養補給方法の種類		
Ⅵ リスクマネジメント	A 全身管理(バイタルサイン、モニタリング)	4	○
	B 呼吸器の解剖と生理(気管カニューレの知識)		
	C 徒手呼吸助法		○
	D 体位ドレナージ		○
	E 呼吸管理と排痰方法		○
	F 吸引の知識と手技		○
	G 感染対策の知識		

別表1-5

研 修 項 目	内 容	単位	演習
Ⅶ 歯科訪問診療の実際	A 歯科訪問診療の進め方	3	
	B 歯科訪問診療と多職種連携		
	C 救急対応		
	D 在宅療養者と家族介護者の支援		
	E eラーニング 項目Ⅰ受講:2単位		
Ⅷ 口腔健康管理の実際	A 口腔健康管理の進め方(訪問前、訪問中、訪問後)	5	
	B 情報収集の方法等		○
	C アセスメントの要素と方法等		○
	D 口腔ケアプランの必要性と立案方法等		○
	E 疾患によりみられる口腔の特徴		
	F 終末期およびターミナルケアにおける対応(緩和ケアの考え方)		
	G 口腔健康増進支援		
	H 症例から		
Ⅸ 介護保険制度	A 介護保険制度の内容(保険給付と地域支援事業、サービス提供している事業者)	1	
	B 介護支援サービスとケアマネジメント		
Ⅹ 専門職種の役割	A 在宅療養を支える職種	1	
	B 各職種の役割(医師、歯科医師、看護師、PT、OT、ST、管理栄養士、薬剤師、介護士、ケアマネジャー)		
	C 多職種と連携するうえでの注意点		
Ⅺ 摂食嚥下機能の評価と対応	A 摂食嚥下機能アセスメント	2	
	B 摂食嚥下機能訓練		○
	C 食事形態の工夫(とろみ剤等)		

※ eラーニングの内容(コンテンツ)は、別紙「eラーニング研修の実施要領」を参照のこと

別表2

関 連 学 会

No.	(法人名)	学 会 名		No.	(法人名)	学 会 名
I		日本歯科衛生学会		11	(一社)	日本小児口腔外科学会
II		日本歯科医学会総会		12	(公社)	日本顎顔面インプラント学会
III 日本 歯 科 医 学 会 専 門 分 科 会	1	(一社) 歯科基礎医学会	IV 日 本 認 定 歯 科 分 科 学 会	13	(一社)	日本外傷歯学会
	2	(特非) 日本歯科保存学会		14	(一社)	日本口腔診断学会
	3	(公社) 日本補綴歯科学会		15	(一社)	日本口腔腫瘍学会
	4	(公社) 日本口腔外科学会		16	(一社)	日本口腔リハビリテーション学会
	5	(公社) 日本矯正歯科学会		17	(一社)	日本口腔顔面痛学会
	6	(一社) 日本口腔衛生学会		18	(一社)	日本口腔検査学会
	7	(一社) 日本歯科理工学会		19	(一社)	日本口腔内科学会
	8	(特非) 日本歯科放射線学会		20	(特非)	日本睡眠歯科学会
	9	(公社) 日本小児歯科学会	V 歯科衛生士教育	1		日本歯科衛生教育学会
	10	(特非) 日本歯周病学会	VI 関 連 歯 科 学 会	1	(特非)	日本咀嚼学会
	11	(一社) 日本歯科麻酔学会		2	(一社)	日本摂食嚥下リハビリテーション学会
	12	日本歯科医史学会		3	(一社)	日本歯科技工学会
	13	(一社) 日本歯科医療管理学会		4	(一社)	ジャパンオーラルヘルス学会
	14	(一社) 日本歯科薬物療法学会		5	(一社)	日本ヘルスケア歯科学会
	15	(一社) 日本障害者歯科学会	VII 看 護 介 護 保 健 福 祉	1	(公社)	日本看護協会 日本看護学会
	16	(一社) 日本老年歯科医学会		2		日本介護福祉学会
	17	(一社) 日本歯科医学教育学会		3		日本保健医療行動科学会
	18	(公社) 日本口腔インプラント学会		4	(一社)	日本健康教育学会
	19	(一社) 日本顎関節学会		5	(一社)	日本公衆衛生学会
	20	(特非) 日本臨床口腔病理学会		6	(公社)	日本栄養・食糧学会
	21	(一社) 日本接着歯学会		7	(一社)	日本ケアマネジメント学会
	22	(一社) 日本歯内療法学会		8	(公社)	日本産業衛生学会
	23	(一社) 日本レーザー歯学会		9	(一社)	日本衛生学会
	24	(一社) 日本スポーツ歯科医学会		10		地域包括ケアシステム学会(各地域別)
	25	(一社) 日本有病者歯科医療学会	VIII 医 科 系 学 会	1	(一社)	日本糖尿病学会
IV 日 本 認 定 歯 科 分 科 学 会	1	(一社) 日本口腔感染症学会		2	(一社)	日本動脈硬化学会
	2	(一社) 日本歯科心身医学会		3	(特非)	日本高血圧学会
	3	(特非) 日本臨床歯周病学会		4	(一社)	日本痛風・核酸代謝学会
	4	(一社) 日本歯科審美学会		5	(一社)	日本肥満学会
	5	日本顎口腔機能学会		6	(公社)	日本人間ドック学会
	6	日本歯科東洋医学会		7	(一社)	日本臨床栄養代謝学会
	7	(特非) 日本顎変形症学会		8	(一社)	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会
	8	(一社) 日本顎顔面補綴学会		9	(特非)	日本緩和医療学会
	9	(特非) 日本顎咬合学会		10	(一社)	日本在宅医療連合学会
	10	日本磁気歯科学会		11	(一社)	日本老年医学会

※ 法人名：(公社)は公益社団法人、(一社)は一般社団法人、(特非)は特定非営利活動法人の略

別表3

国 際 学 会 等

No.	学 会 名 (略 称)
1	International Federation of Dental Hygienists (IFDH) 国際歯科衛生士連盟
2	International Association for Dental Research (IADR) 国際歯科研究学会議
3	American academy of Periodontology (AAP) アメリカ歯周病学会
4	International Association for Disability and Oral Health (IADH) 国際障害者歯科学会
5	Dysphagia Research Society (DRS) 米国嚥下障害学会
6	European Society for Swallowing Disorders(ESSD) ヨーロッパ嚥下障害学会
7	World Congress of Gerontology and Geriatrics (WCGG) 国際老年学会
8	Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology and Geriatrics (AORCGG) アジア・オセアニア国際老年学会議
9	World Dysphagia Summit (WDS) 国際嚥下学会